

◇編集後記◇

50巻2号の編集後記で前編集委員長の竹下達也先生が書かれていたように、川上憲人先生を編集委員長とし、7人の副編集委員長と58人の編集委員（国内32人、国外26人）という体制で新編集委員会が立ち上がりました。看護からも副編集委員長を選出するということが私が大役を引き受けさせていただくことになりました。力不足ですが、精一杯努力させていただきます。

2007年4月1日から2008年3月31日までに受け付けた論文は産業衛生学雑誌に26件と英文誌JOHに219件でした（編集委員会事務局調べ）。JOHの内訳は国内60件、海外159件で、73%が海外からの投稿となっていますので、非常に国際的な学会誌です。それを反映して、手元に届く英文誌JOHのページ数、論文数は和文誌より、はるかに多くなっています。和文誌では原著や研究報告が2-4本ですが、JOHは毎回8本以上の論文が掲載されています。和文誌に掲載されているものは日本の現場に役立つ質の高い論文であることは確かですが、もう少し量的に拡大し、事例や調査報告など、学会会場での盛んなコミュニケーションや現場の活動が反映されたものになる必要があるように思います。

第1回の編集委員会で川上先生から、現委員会の方針として、学会誌としてさらに質を向上させること、そして会員のコミュニケーションを図ることを目標として活動するとお聞きしました。国内外でその質の高さが認められ、信頼される雑誌にしていくことはなんとしてでも追及しなければいけないことです。しかし、その反面で、現場の活動などが紹介されにくい傾向につながる可能性もあり、この2つは、いわばトレードオフの関係にあるとも言え、両立させることはなかなか難しいことかもしれません。

しかし、できることから始めていきたいと思います。産業衛生学会員の29.5%を占める看護職から編集委員に加わっているものとして、看護職の皆様の声を学会誌に反映できるよう、機会あるごとに聞かせていただくつもりです。また、多くの専門職の方々が活用しやすい情報を発信できるように、編集委員会としてさらなる努力をしていきたいと思いますので、どうぞ、いろいろな意見をお聞かせください。

（荒木田美香子）

「産業衛生学雑誌」編集委員会

委員長：川上憲人（東京大）

副委員長：荒木田美香子（国際医療福祉大）、井上和男（東京大）、上島通浩（名古屋大）、
車谷典男（奈良医大）、堤 明純（産業医大）、森 満（札幌医大）、森本泰夫（産業医大）

有澤孝吉（徳島大）、石竹達也（久留米大）、市場正良（佐賀大）、小笹晃太郎（京都府医大）、掛本知里（東京女子医大）、川口陽子（東京医歯大）、熊谷信二（大阪府公衛研）、黒沢洋一（鳥取大）、河野公一（大阪医大）、酒井一博（労働科学研）、榊原久孝（名古屋大）、澤田晋一（独法労働安全衛生総研）、塩飽邦憲（鳥根大）、菅沼成文（高知大）、笠島 茂（国立保健医療科学院）、埴田和史（滋賀医大）、竹内 亨（鹿児島大）、田中昭代（九州大）、谷川 武（愛媛大）、土井由利子（国立保健医療科学院）、中尾睦宏（帝京大）、橋本英樹（東京大）、馬場園明（九州大）、濱田篤郎（海外勤務健康管理センター）、福島哲仁（福島医大）、丸山総一郎（神戸親和女子大）、三木明子（筑波大）、村田勝敬（秋田大）、森河裕子（金沢医大）、吉田貴彦（旭川医大）、若林一郎（兵庫医大）、渡辺博且（産業医大）

〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番地8 公衆衛生ビル4階

電話 03-3356-1536 ファックス 03-5362-3746 振替 東京 00100-7-133495番